

## フランス地域研究のための文献リスト

### 1 事典

新倉俊一ほか編『[事典 現代のフランス](#)』大修館書店、1977年(増補版再版、1999年)  
菅野昭正、木村尚三郎、高階秀爾、荻昌弘編『[読む事典 フランス](#)』三省堂、1990年  
草場安子『[現代フランス情報辞典ーキーワードで読むフランス社会](#)』大修館書店、1998年(改訂版、2003年)

著者は、在日フランス大使館広報部資料室の documentaliste をなされていた方です。現代フランスを知るためのキーワードを解説した辞典で、ぜひ手元に置いておきたいとても便利な情報辞典です。

### 2 通史

谷川稔 / 渡辺和行編著、『[近代フランスの歴史ー国民国家形成の彼方に](#)』ミネルヴァ書房、2006年

柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『[世界歴史大系 フランス史](#)』1～3、山川出版社

①先史～15世紀、1995年

②16世紀～19世紀なかば、1996年

③19世紀なかば～現在、1995年

福井憲彦編『[フランス史](#)』(新版世界各国史12)、山川出版社、2001年

中木康夫『[フランス政治史](#)』上・中・下、未来社、1975-76年

渡邊啓貴『[フランス現代史](#)』中公新書、1998年

柴田三千雄『[フランス史10講](#)』岩波新書、2006年。

フランス史研究の泰斗が執筆した新書版のフランス通史です。フランス史の通史を読むのならば、まず本書をお薦めします。新書版ながら重要なテーマは掘り下げられており、「ヨーロッパ地域世界の中のフランス」という視点を軸に、フランス史の独自性を描き出しています。

佐藤彰一・中野隆生編『[フランス史研究入門](#)』山川出版社、2011年

### 3 フランス概説

田辺保編『[フランス学を学ぶ人のために](#)』世界思想社、1998年

歴史、言語、芸術、文化、生活といった個々の特殊領域を超えて、学際的アプローチによる「フランス学」を提唱している本ですが、フランスについてとにかく何かを学びたいと思っている人にとって、格好の手引き書となっています。

西永良成『[変貌するフランスー個人・社会・国家](#)』NHKブックス、1998年

著者は長年東京外国語大学で教鞭をとられた仏文学者です。日本における近代フランスの紋切り型のイメージと、急激な変貌をとげたポスト・モダンの現代フランスとの様々な落差と相違を考察した著書です。現代のフランスの諸相に深く切り込んだ現代フランス社会論の良書です。

三浦信孝編『[普遍性か差異かー共和主義の臨界、フランス](#)』藤原書店、2001年

小田中直樹『[フランス7つの謎](#)』文春新書、2005年

著者はフランス社会経済史が専門の方ですが、著者がフランス滞在中に感じた数々

の謎の中から7つをとりあげ、それらを切り口にしながら、フランスの日常生活の特徴と、そのよってきたる由来を論じています。経験に即した平易な語り口ながら、あなたをフランスという国の社会科学的・歴史学的な考察へといざなってくれる著書です。

#### 4 個別研究－フランスの歴史と現在への新たな視点を得るために－

フィリップ・アリエス『[〈子供〉の誕生－アンシャン・レジーム期の子供と家族生活](#)』みすず書房、1980年

長谷川まゆ帆『[女と男と子どもの近代](#)』山川出版社、2007年

ナタリー・Z・デーヴィス『[マルタン・ゲールの帰還](#)』平凡社、1985年（『帰ってきたマルタン・ゲール－16世紀フランスのにせ亭主騒動』平凡社ライブラリー、1993年）

ロバート・ダーントン『[猫の大虐殺](#)』岩波書店、1986年

★図書館では [同時代ライブラリー](#)（1990年刊行）を所蔵  
ロベール・ミュシャンプレド『[近代人の誕生－フランス民衆社会と習俗の文明化](#)』筑摩書房、1992年

ロベール・マンドルー『[民衆本の世界](#)』人文書院、1988年

長谷川まゆ帆『[お産椅子への旅－ものと身体の歴史人類学](#)』岩波書店、2004年

ジャン＝マリー・アポストリデス『[機械としての王](#)』みすず書房、1996年

イヴ＝マリー・ベルセ『[真実のルイ14世－神話から歴史へ](#)』昭和堂、2008年

アルレット・ファルジュ、ジャック・ルヴェル『[パリ 1750－子供集団誘拐事件の謎](#)』新曜社、1996年

柴田三千雄『[パリのフランス革命](#)』東京大学出版会、1988年

立川孝一『[フランス革命－祭典の図像学](#)』中公新書、1989年

リン・ハント『[フランス革命の政治文化](#)』平凡社、1989年

松浦義弘『[フランス革命の社会史](#)』（世界史リブレット33）山川出版社、1997年

森山軍治郎『[ヴァンデ戦争－フランス革命を問い直す](#)』筑摩書房、1996年

浜忠雄『[ハイチ革命とフランス革命](#)』北海道大学図書刊行会、1998年

モーリス・アギュロン『[フランス共和国の肖像－闘うマリアヌ 1789－1880](#)』ミネルヴァ書房、1989年

杉本淑彦『[ナポレオン伝説とパリ－記憶史への挑戦](#)』山川出版社、2002年

長井伸仁『[歴史がつくった偉人たち－近代フランスとパンテオン](#)』山川出版社、2007年

オリヴィエ・ブラン『[女の人権宣言－フランス革命とオランブ・ドゥ・グージュの生涯](#)』岩波書店、1995年

イヴォヌヌ・ヴェルディエ『[女のフィジオロジー－洗濯女・裁縫女・料理女](#)』新評論、1985年

長谷川イザベル『[共和国の女たち－自伝が語るフランス近代](#)』山川出版社、2006年

ミシェル・ペロー『[フランス現代史のなかの女たち](#)』日本エディタースクール出版部、1989年

喜安朗『[パリの聖月曜日－19世紀都市騒乱の舞台裏](#)』平凡社、1982年

山田登世子『[メディア都市パリ](#)』青土社、1991年

中野隆生『[プラーグ街の住民たち－フランス近代の住宅・民衆・国家](#)』山川出版社、1999年

- アラン・コルバン『[においの歴史－嗅覚と社会的想像力](#)』藤原書店、1990年
- ジョルジュ・ヴィガレロ『[清潔になる〈私〉－身体管理の文化誌](#)』同文館、1994年
- 福井憲彦『時間と習俗の社会史－生きられたフランス近代へ』新曜社、1986年(ちくま学芸文庫、1996年)
- 谷川稔『[十字架と三色旗－もうひとつの近代フランス](#)』山川出版社、1997年
- 杉本淑彦『[文明の帝国－ジュール・ヴェルヌとフランス帝国主義文化](#)』山川出版社、1995年
- 平野千果子『[フランス植民地主義の歴史－奴隷制廃止から植民地帝国の崩壊まで](#)』人文書院、2002年
- 渡辺和行『[ホロコーストのフランス－歴史と記憶](#)』人文書院、1998年
- 原聖『[周縁的文化の変貌－ブルトン語の存続とフランス近代](#)』三元社、1990年
- 原聖『[〈民族起源〉の精神史－ブルターニュとフランス近代](#)』岩波書店、2003年
- ミュリエル・ジョリヴェ『[移民と現代フランス－フランスは「住めば都」か](#)』集英社新書、2003年
- 宮島喬『[移民社会フランスの危機](#)』岩波書店、2006年
- 渡辺和行『[エトランジェのフランス史－国民・移民・外国人](#)』山川出版社、2007年
- 内藤正典『[ヨーロッパとイスラーム－共生は可能か](#)』岩波新書、2004年
- ルーブナ・メリアンヌ『[自由に生きる－フランスを揺るがすムスリムの女たち](#)』社会評論社、2005年
- ファドゥラ・アマラ『[売女でもなく、忍従の女でもなく－混血のフランス共和国を求めて](#)』社会評論社、2006年
- 浅野素女『[フランス家族事情－男と女と子どもの風景](#)』岩波新書、1995年
- 宮島喬『[ヨーロッパ社会の試練－統合のなかの民族・地域問題](#)』東京大学出版会、1997年

(2013年9月改訂 工藤光一)